

IMPACT ACADEMY

For Schools

REPORT

Vol.3

インパクトアカデミーから生まれた、未来を変えている人の物語



EARTH COMPANY

2026



在り方から問い直す リアルな体験が 人を成長させる



インパクトアカデミーは、

アジア太平洋地域で多くのチェンジメーカーを伴走支援してきたEarth Companyが、

知見と経験を統合して設計した、リジェネラティブな人財育成する研修です。

国内対面型・オンライン型に加え、拠点であるバリ島でのフィールド研修など、

ニーズに合わせた多様なスタイルでこれまで15,000人以上が参加。

世界の社会課題や環境問題と自分とのつながりを認識し、内省を深めて一歩踏み出すことを促す学びのデザインで、

一時的な知識獲得や感動で終わらない「内的変容」を重視している点が特徴です。

独自のフレームワークと対話中心の設計により、参加者一人ひとりが自分の価値観や生き方を問い直し、

「自分だからこそできるインパクト」を具体的な行動へつなげていきます。

Program

海外研修(バリ島)

バリ島の圧倒的な自然や、精神性を大切にしているローカルコミュニティ、そして観光産業の裏側で進行する社会課題・環境問題の現場に向き合う体験に、参加者は心を大きく揺さぶられます。

そこで生まれる戸惑いや葛藤、希望を言語化しながら、「世界で起きていること」と「自分の生き方」が一本の線につながり、知識ではなく内側から変容が起きていく唯一無二の研修です。

探究学習プログラム

高校生向け探究教材「リジェネラティブクエスト」を開発し、教員が自校で使える3コマ無償版と、スタッフが直接授業を届ける5コマ有償版の2形態で展開。地域の再生的な取り組みを発見・分析しアイデアを創出するプログラムを通じ、生徒の価値創造思考と地域への当事者意識を育んでいます。



詳しくはこちら!▶

自分らしい在り方で世界を再生していくチェンジメーカーを育てるには、どのような研修を届けばいいのだろうか？

知識だけでは仲間にはできないし、気合いだけでは継続が難しい。だからこそ、スキルだけではなく在り方も模索できる唯一無二の研修になるよう寄り添った研修を届けてきました。

参加者に変容が起きていると強く感じるのは、リアルな現場体験の後に感じる「不安や揺れ」を言語化し、他の参加者に共有し始めた時です。

その感情を「弱さ・失敗」としてではなく、「このモヤモヤは自分の変化の一部なんだ」と自身の見え方が変わった時、内的な変容の準備が整ったと感じます。

これは、メジローの「変容的学習理論」でも重要なプロセスの1つで、私たちの研修でも大切にしている時間です。変容は一発の気づきではなく、揺れや迷いを含んだ長いプロセスです。内的変容が始まれば、研修終後に元の思考や習慣へ引き戻されるような局面でも、立ち戻れる軸をもてるのです。今年の研修では、行動変容が起き始めた参加者が多かったことも、このプロセスが影響しているのかもしれませんが。

インパクトアカデミー
研修事業部
シニアマネージャー
藤本 亜子



研修でどんな変化が起きた？〈その後の物語〉

価値観が 180度変わった、 人生で一番濃い1週間！

Day1



五感でバリ島を感じる。

空港を出た瞬間の湿度やお香・スパイスの香り、現地の言語などを五感で味わいながらホテルへ。バリの文化と宗教観、自然・人・神々の調和を重んじるバリヒンドゥの哲学を体験。

Day2



不都合な真実を受け止める。

観光開発の陰で深刻化するごみ問題や物価高騰に伴う無計画な農地開発・文化衰退など、「不都合な真実」を学ぶ。通常は訪れない島最大のごみ山を訪問し、無計画な人間活動による複雑な課題の最前線を体験。

Day3・4



解決策の視点を学ぶ。

分断ではなく未来を再構想するための視点を、Earth Company独自のフレームで学ぶ。ごみ問題の根本解決に挑むSungai Watchと、リジェネラティブビジネスを実践するChop Valueを訪問し、リーダーから直接現場の取り組みを学ぶ。

Day5



世界の見方を揺さぶる。

「仕方ない」という諦めを手放し、「何も諦めない」という選択肢をもつ。環境・社会課題の先で大切な人の生命を諦めざるを得なかった人々の現実と、それを救い続ける現代のマザーテレサ、ロビン・リムの哲学に触れ、世界を再生する視点を学ぶ。

Day6



自分の文脈で意味づける。

5日間の体験を内省し、自分の中に生まれた感情と問いを丁寧に見つめる時間。まだ言葉にならない揺れも大切に観察しながら「失敗を恐れず今できる一歩」を言語化し、仲間とシェアし、応援し合うことで、それぞれ未来への一歩を踏み出す。

2025年に開校したZEN大学の社会実践プログラムの一環として、7月に1期生10名にバリ島7日間の研修を提供。

頭だけでなく心と五感で社会課題と向き合うプログラム設計のもと、社会起業家やエシカルホテル、ローカルコミュニティで、環境問題・社会課題の最前線を体験しながら「自分と世界のつながり」を探究しました。

そのプログラム内容と、帰国後に参加者に起きた様々な変容をご紹介します！

Day1 | バリ島の伝統文化 / 観光業の課題と解決策

- ・バリヒンドゥ教の儀式体験
- ・バリ人から消費型観光の課題を学ぶ
- ・循環型ホテル「Mana Earthly Paradise」から再生型観光を学ぶ

Day2 | ごみ問題のリアル

- ・ごみ拾いを通じてごみ問題を体感
- ・バリ島のごみ山周辺コミュニティと支援施設を訪問

Day3 | ごみ問題 解決策の視点

- ・バリ島の川ごみを一掃する団体訪問
- ・町を歩き課題解決につながる活動やビジネスを探索

Day4 | リジェネレーションとは

- ・「リジェネレーション」という概念と世界の実践を学ぶ
- ・割り箸をアップサイクルして家具を製造するソーシャルビジネス訪問

Day5 | 貧困と命 / 振り返り

- ・貧困、教育格差、気候変動が複雑に絡みあう産科医療の現場を学ぶ
- ・全体の振り返り

学校法人
日本財団ドワンゴ学園
国際センター
藤木 舞様



世界で起きている社会課題に目を向けることを目的に、産業の約80%を観光業が占めるバリ島を舞台とした研修を実施しました。Earth Companyの現地ネットワークと信頼関係があったからこそ実現した訪問や対話を通じ、生徒は社会課題のリアルを体感しました。また、毎日の振り返りと共有の時間が理解を深め、学びを自分事として捉える貴重な機会となりました。

バリ島で何が変わった？

研修参加者に聞いてみました！



「諦め」から 「小さく動き続ける人」へ

yuiさん



研修前の自分

「だって・どうせ」と諦めが強く、
年齢や環境を言い訳にして
チャレンジを避けていた自分。



変容の核



子どもの支援を行う
Bali Life Foundationとの
出会いと子どもたちの笑顔。
教育支援への想いが明確になり、
国内ボランティアに動き出したこと。

研修後の自分

身近なところから小さく動き続ける自分。
「失敗してもいいからやってみよう」
「自分にもできることがある」と、
一歩踏み出せる人に。

踏み出した一歩



奨学金に挑戦し、
Bali Life Foundationと連携した
教育支援プロジェクトを形にして、
日本とバリの子どもの未来に
関わり続けたい。

「見る人」から 「世界を自分ごとで感じる人」へ

sachiさん



研修前の自分

世界を「テレビ越し」に眺めるだけの自分。
社会課題もどこか遠くの話で、
自分とのつながりを
感じできていなかった。



変容の核



エシカルやアップサイクル商品を手にした時。
その瞬間は値段が高いと感じたけど、
逆に安価な商品の裏側にある
社会の闇に気づいたり、
商品に込められた思いが気になるようになった。

研修後の自分

ものの見え方が本当に変わった。
何かを買う時「この商品にはどんな思いが
込められているだろう」と考えたり、出来事を
自分の感情や身体感覚として受け取るようになった。

踏み出した一歩



大好きな動物のためにできることをしたくて
犬の散歩ボランティアをしたり、
アップサイクルのお店を探したり、
これまでなら出来ない理由を探していたのに、
今は行動できていて嬉しい。

「稼ぐ」から 「持続可能なビジネスをつくる人」へ

taikiさん



研修前の自分

とにかく「お金を稼ぎたい」と思っていた。
将来の家族を幸せにするために、
金銭的な豊かさを優先する
仕事をしたいというビジネス観の自分。



変容の核



訪問した全ての団体をビジネス視点で学んだ経験。
ごみ問題などの課題とビジネスが連携する
現場から、ビジネスが利益だけではなく、
課題解決の推進力になる可能性を
体感できたこと。

研修後の自分

人生のゴールが完全に変わった。
ビジネスを社会や地球をよくする力として捉え直し
「地球がサステナブルであり続けられる
ビジネスをつくる人」になりたい。

踏み出した一歩



起業サークルやインターンで実践知を磨き、
1年後の起業を見据えた事業アイデアを考えて、
世界をより良くする
持続可能なビジネスを立ち上げたい。

「立ち止まっている自分」から 「動き続けるマグロ」へ

mihoさん



研修前の自分

「止まっている自分」。
頑張りたいと思ってた英語も、
挑戦も先延ばしにしがちで、
失敗や周囲の目が怖くて動けなかった。



変容の核



スオンを訪問した時に覚悟が決まった。
子ども達に英語でうまく伝えられなくて、
側から見たら失敗のようにみえたかもしれないが、
子どもたちは笑顔だったし自分もとても楽しかった。
それこそ成功の証だと思えた。

研修後の自分

「動き続けるマグロ」と呼ばれるようになった。
もっと自分は頑張れる、
人のために何かしたいと思い、
英検の勉強を始めて目標に合格したり、
関心があることに没頭し常に動いている。

踏み出した一歩



英検や留学、地域ボランティアへの挑戦を継続し、
「自分の言葉で世界とつながる力」を高めながら、
心が温かくなる活動を
ライフワークに育てていきたい。

個人の変容を生み出す

Earth Companyの ラーニングメソッド

Earth Companyが考える
グローバル人財に必要な
知覚・ポータブルスキル・マインドセット

知覚

1 長期的ビジョンと戦略

今だけでなく未来に利益を生む行動を選ぶことができる。

2 協働と共創

マルチセクター、ボーダーレスに、「共繁栄」を導くアプローチを選べる。

3 社会的責任と倫理

自分と他者・社会・未来の関係を考えて、正しいことを選び行動できる。



課題の現場でリアルな体験と対話・感情の共有を重ねるプロセスに、独自のフレームワークによる視野の拡張が掛け合わさることで、そこで得た気づきや揺らぎが、「問いを立てる力」「他者と協働しながら次の一步を設計する力」といった実践力を育成します。また、多様な価値観や不確かさを受け止めながら、好奇心と謙虚さを持って学び続けようとするしなやかな在り方へと変換されていきます。知識やスキルの習得にとどまらず、在り方・価値観・倫理観を含めて育成することを目指し、現場での対話・内省・行動イメージの具体化を通じて、ポータブルスキルとマインドセットを同時に深く育てる、他にはない越境学習の場になっています。

バリ島研修で育まれる 6つの力

ポータブルスキル

1 表現力とアイデンティティ

自分の感覚・価値観・想いを言葉や行動で表現する力。

言葉を引き出す場づくりのもと、フィールドワークでの学びや想いの言語化を繰り返すことで、自分起点で語る力を育みます。



2 多様性を受け入れる

日本とは異なる宗教観や生活様式が息づくバリ島の文化に深く触れ、「違い」受け入れて相手への敬意と興味を持つ柔軟な思考を養います。



3 複雑性と構造の理解

物事を単純化せず、背景にある構造や相互関係を捉える力。

社会課題を例に、観光ごみが行き着くごみ山や川のごみ分別現場を訪れ、課題の多面性と問題を生み出す仕組みを体感的に学びます。



マインドセット

1 好奇心

既知の枠を超えて興味を持ち、未知の世界に飛び込もうとする力。非日常のバリ島の環境に身を置き、現地の社会変革リーダーや課題の最前線との出会いを通じ、学びへの内発的な動機を呼び起こします。



2 謙虚な心

自分の限界や無知を知り、他者や環境から学び続ける姿勢。

ごみ山で生きる人々やチェンジメーカーの生き様に触れ、自分の価値観の幅に気づき、他者への敬意と開かれた姿勢を育みます。



3 レジリエンス

不確実な状況や困難に直面しても、しなやかに立ち直り前進できる力。解のない複雑な問題と向き合い、葛藤を抱えながらも仲間と共に考え続けるバリ島での体験が、内面の強さを育てます。



学びの機会をより多くの生徒さんに

Earth Companyの 寄付講演プログラム



財団や企業の寄付により、全国の中学校・高校に

1コマの無料講演を提供する寄付講演プログラム。

2025年度はUACJ軽やか財団様からの助成事業として、

グループの工場が所在する県の高校にて講演を実施しました。

気候変動という大きなテーマのもと、

世界と自分がどうつながっているのかを身近な事例から考え、

未来に向き合うきっかけを提供しました。

2025年の実施実績

3校 413人

【実施校】愛知県立阿久比高等学校、栃木県立小山西高等学校、名古屋市立緑高等学校

講演概要

社会課題・環境課題について心で感じ、一歩踏みだしたくなるきっかけを提供しています。



現状把握

(左脳での理解)

世界で何が起きているかを知る

課題解決への動き

(右脳での共感)

最前線の活動家の思いを感じる

行動への動機付け

行動が変わり始める

Voices

講演に参加した生徒たちの感想

一人一人ができることは限られていて、すぐに環境問題が良くなる訳ではないが、できることを少しずつ実行し、よりよい未来を作りたいと思った。

この講演により、自分が何をしたらいいのか、どんな言葉を皆に伝えていかなければならないのかについて明確になった。

私たちの行動によって、世界を少しでも変えることができるかと実感できた。今後は世界について深く考えて生活をしたい。

こんなに身近なところに環境問題の原因が潜んでいることに驚いて、これからの生活の見直しになるきっかけになった。

課題をしっかり理解し、自分の行動がどのような影響を起こすのかを考えた。解決したい課題がある時は自分がきっかけになれるよう行動したい。

自分がどうするべきなのか前よりも明確に分かったし、今までよりも責任をもって行動し、この環境を守っていかなければならないと思った。

ニュースだけでは得られない、世界で何が起きているどんなことが課題なのかというのを細かく知ることができた。

栃木県立小山西高等学校
校長
佐山 利晴様

生徒達は今ある環境を当然のものとして享受するのではなく、未来の世代に対して責任を持つ存在であることを学びました。持続可能な社会の先にあるリジェネラティブとは、現状に甘んじるのではなく、より良い未来を築くために、自らが動き出すことの大切さを示しています。変化を待つのではなく、自らがその変化の担い手となる勇気を持つことの尊さを生徒は学んだようです。

一般財団法人
UACJ軽やか財団 理事
斎藤 和敬様



リジェネラティブな未来に向けて、先駆的な取り組みを国内・海外で展開しており、ミッション・ビジョンに大いに共鳴したため、寄附を決定いたしました。Earth Company様の講演は、講演者の情熱はもとより、未来を担う子どもたちの視野を広げるだけでなく、大人も知らない事実を目をむけ、考えさせられる非常によい機会となりました。